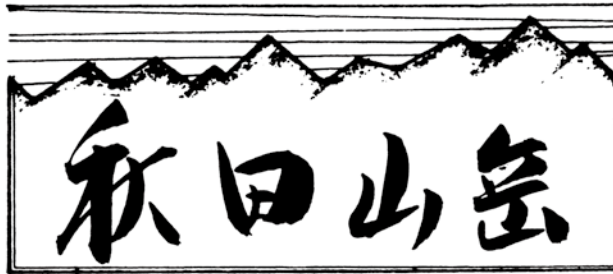


2018



平成 30 年 8 月 発行

No. 108

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市 泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018 (823) 2708

発行 秋田支部
編集 鈴木裕子

阿部鉄男氏 追悼

阿部鉄男氏を偲ぶ

長岩嘉悦

阿部鉄男さんは日本山岳会秋田支部の会員で、支部会員の中でも会員番号が六千番代の古くからの会員であったことから、人、顔は、一応知っていたのですが、一緒に山へ登ったり、総会や懇親会等で行動を共にしたことはありませんでした。

阿部さんは、栗駒国定公園のビジターセンターに常勤していて、私が栗駒山に登る度にセンターを訪ねたのですが、いつも留守で、ゆっくり話し合う機会がありませんでした。

私が東成瀬中学校に勤務した時の校長が、稲川町の教育長に成った縁で、昭和六十年（一九八五年）の七月に、稲川町教育委員会と稲川町公民館主催で「全町親子栗駒山登山」を計画し、その時の講師として私に派遣依頼があり、昭和六十一年から平成十一年（一九九九年）まで、十一回に渡り、親子登山の案内役として私は毎年栗駒山に登っていたのですが、途中で阿部さんと顔を合わせたのです。阿部さんはあまり多くを語らず、仕事一筋に勤めている人でした。

そんなわけで、逢う度に「また来たが・・・、気を付けて・・・」と軽く挨拶をする仲でした。

栗駒山をこよなく愛し続けた阿部さんを偲び、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。（合掌）



阿部鉄男氏追悼

佐々木民秀

日頃お逢いすることの無かった阿部鉄男氏（会員番号六九六〇）の訃報を新聞のお悔やみ欄で知った。

平成二十八年九月四日逝去

（享年七十五才）



靫山 後方左から 2 番目が阿部さん

阿部さんは、昭和四十五年四月に、柴田均二・佐藤兼治の両元支部長の紹介で入会されている古参の会員であるが、支部事業にはほとんど顔を出さずとはなく、大方の会員は阿部さんとお会いする機会が無かったと思う。阿部さんとは一度だけ山行を共にしたことがある。昭和五十八年十月の支部山行・靫山で、当時、この山は登山者により知られておらず、兵平湯での懇親会を兼ねての山行であった。故福田副支部長一行七名で、男靫へ登った後、女靫へ藪漕ぎし、靫峠へ下山しているが、当時の阿部さんはもの静かで実直性のある岳人であったと記憶している。

（合掌）

太平山山開き市民登山報告 三浦眞六

六月十日(日)、太平山県立自然公園整備促進地域協議会主催の恒例の山開き清掃登山が行われた。

この登山に対して、秋田市が一般市民を対象として登山者を募集しており秋田支部から例年多くの会員が登山リーダーやサポートを担当して協力している。

蓮華の形に似た大きな乳白色をした朴の木の花を見ながら、登山口の旭又駐車場に着いたのは午前七時前。既に数名の支部員が到着していた。

これから登山者に乗せたバスが到着するまでの数十分が山開き登山に協力する仲間達との交流の場である。所属山岳会の隔てなく山情報交換、古い山仲間近況、お互いの健康状態を確認して元気でいられることに感謝しあっている。

今日は日曜日、好天のことであつてか、大勢の登山者で旭又登山口は大賑わい、上小阿仁村や河辺地区からの登山者とも山頂で合流する予定である。午前八時バス到着。主催者である秋田市担当者の挨拶、注意事項、ストレッチ体操等が終了した後、秋田市からの参加者三十六人は三班に分け、それぞれの班に担当のリーダーが付き、八時三十分出発した。登山ペースを御手洗まで十時三十分、太平山頂上着十二時十五分を目標とし、どうしてもついて行けないと判断される登山者は各班を離れ、サポートの指示に従い登山を

継続していただくことを登山開始前に周知した。

今日も素晴らしい天気、今年はヒメシヤガの開花が早く、すっかり散ってしまったあやめ坂も快調に通過。二時間で湧き水のある御手洗に到着。充分な水分補給をした。

御手洗を出発すると、毎年のごとくペースの落ちる参加者が出る。立ち止まって一人ひとりの顔色を確認する。登り始め辛そうだった最高齢の女性に声をかけると元気な返事、もう心配はなさそうである。

標高一〇〇〇m地点を前に、母と娘で参加した二人が班を離れ、サポートの指示に従っていると連絡。先ほどまでは何の心配も無いように見えた親子であったが、やはり、元気な子供でも油断禁物である。

正午前、各班は頂上に到着した。遅れた親子も支部会員のサポートを受けて既に稜線に到着、頂上を目前にしていることを知り、今年も全員が頂上まで登る見込みになったことに安心する。

今回、私は太平山頂上に鎮座する太平山三吉神社奥宮で行われる「安全登山祈願祭」に参加し、初めて玉串の奉納をさせて頂いた。

帰りの安全を願い、また、今年一年の安穩を願って頭を垂れた。午後一時間、下山を開始する。余裕の出してきた参加者は、弓なりに伸びる

秋田湾岸、その先に見える男鹿本山、その右手前にまろやかな寒風山、人工的形の八郎瀧残存湖に感動している。浮き上がった根につまずかないよう慎重に下山し、午後四時前に旭又駐車場に到着した。

しかし、登りに多くの体力を消耗した三人は、まだお滝神社を過ぎたばかりとの連絡。やむを得ずバスは出発。



山開き安全祈願祭



山頂神社前で記念撮影

三〇分後、ようやく到着した三人に乗せた秋田市公園課担当者の車を見送った後、佐々木民秀顧問のねぎらいの挨拶で解散となった。

参加者 三浦眞六 堀井弘

安藤金栄 鎌田倫夫 石川祐子

今野昌雄 鈴木裕子 川口廣志

大橋忠雄 浅野茂春 熊谷光子

福田光子 長岡幸則

留守本部 佐々木民秀

太平山登山以外でも地域の清掃登山、親子登山、登山道の整備等で活動されている会員の方は事務局までお知らせください。支部の公益的事業として記録しておきたいと思えます。

支部会員執筆紹介

分県登山ガイド

「秋田県の山」第三版

佐々木 民 秀

平成三十年七月発行

山と溪谷社出版

A5版 一九〇〇円(税別)

二年間に渡ってほぼ全山に登つての再調査。地図を大きくし、コース状況や呼名、三角点等に重点を置き、登山届けのQRコードを初めて取り入れ、里山を増ページしている。

宮城・岩手・秋田・三支部合同登山 (栗駒山メモリアル登山)

鎌田倫夫

平成二十年六月十七日に栗駒山山城の岩手県内陸部を震源とする地震が発生し、大きな被害が生じた。山地での崩壊とそれに伴う土石流なども発生し栗駒山南東麓の山容をも大きく変えてしまった。震災後十年目に当たり、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、併せて栗駒山の持つ魅力を再認識し合う目的で、県域の秋田・岩手・宮城の三支部による合同登山が宮城支部の発案により実施された。

六月十七日(日)集合場所の御所野から二台の乗用車に分乗し出発した。途中道の駅「十文字」で今野顧問と合流し、九名揃ったところで須川温泉へ向かった。

九時到着。登山口の駐車場はまだ混雑していなかった。山頂でのセレモニーの時間には十分余裕があるので準備を整えて須川コースをゆっくりゆっくりの登山開始。まもなく前日に焼石岳に登ったという四人のグループ(仙台市)と会う。

名残ヶ原ではイワカガミ等の花々を堀井副支部長の説明に、いつも以上に高山植物の観察時間をとった。昭和湖ではトイレがあることを初めて知った。だいぶ前に建ったようだが私は何年も訪れていない。

急登が過ぎて、視界が開けると、雪渓となる。各自汚れた靴の泥を落としながら登る。その側らには水芭蕉が咲いていた。

十時十五分、分岐である天狗平に到着。宮城県側の雲海が見事である。

十時五十分山頂到着。ほぼ予定どおりである。風があり寒く、登山客は風よけして昼食している。宮城・岩手両支部はまだ到着していない。我々は混雑しないうちに記念撮影をし、昼食にした。

まもなくイワカガミ平登山口から支部旗をサツクにかけて登って来た宮城支部が到着し、須川温泉登山口から登って来た岩手支部も到着。三支部総勢三十一名揃ったところで宮城支部遠藤副支部長の進行でセレモニーが始まった。

はじめに震災で犠牲になられた被害者へ黙祷を捧げた。続いて鈴木秋田支部長が企画して下さった宮城支部へお礼を述べた。高橋岩手事務局長は、地震が発生した時の岩手の被害状況を、栗原市出身で栗駒山への思いが深く、今回の三支部合同登山を企画担当してくださった富塚宮城支部長の挨拶があった。岩手、宮城各支部のお話を聞いてから鈴木支部長が、岩手県、宮城県と比較して秋田県側の被害が少なかつたのは栗駒山があつたからと思ふ。地震直後に栗駒山に登つた人から山頂部に大きな亀裂が出来ていたと聞いた。東日本大震災も含め、これからも被災した地域に心を寄せていきたいと話していた。

最後に被害が大きかつた地元栗原市

の登山愛好者でもある佐々木義郎市議の挨拶で締められた。

山頂は外の団体や百名程の登山客で賑わっており、集合記念撮影終了後、秋田支部は早く到着していたので、他の登山客に場所を譲ることにし、宮城・岩手両支部に挨拶して十二時三十分下山開始。参加者の希望により天馬尾根コースを通り林岳経由で下山することにした。



3支部集合 栗駒山山頂で

天狗平より尾根コースに入り高山植物に見惚れているとハイペースの三名程の団体に追い越された。秋田支部はスローペース、下山後のことを考える。林岳を下山してから須川温泉の駐車場まで乗用車を回収に行かなくてはならない。こんなことをしている場合ではないと思ひ、支部長の了解を得て私と熊谷さんがペースを上げた。四十年以上ものヤマトモで気の合う熊谷さ

んが同行してくれたので心強い。

林岳までは途中二つのピークがある。一三三三mと一三九七m、三つ目が林岳(一四二四m)である。私はこのコースは初めてなので二度とも偽林岳に騙された。その一つ目の登りでハイペースの団体を追い抜く。十四時四十分下山到着。サツクを路上脇にテポして早速須川温泉まで乗用車回収に向かう。熊谷さんも付き合ってくれた。下りだと楽だが登坂三キロ、コースタイムで徒歩四十五分であるが、なんとか頑張つて三十分で到着。

林岳登山口まで戻って間もなく石川さんが下山口に到着。すぐ石川さんの乗用車を回収に再び須川温泉口に向かった。しばらく経つて全員が下山してきた。お天気が回復して、ドウダンつつじの花や足元の数々の高山植物が真つ盛り、久しぶりに天馬尾根や湿地帯の木道歩き、そして林岳に登ることが出来て楽しかつたと喜んでた。

ここで解散し、帰路に就く。日没が遅くなり、御所野に到着した時はまだ明るかつた。



秋田支部 栗駒山山頂で

- 参加者
- 今野昌雄
 - 鈴木裕子
 - 鎌田倫夫
 - 石川祐子
 - 堀井弘
 - 川口廣志
 - 柴田勸
 - 熊谷光子
 - 澤田石一夫

本会総会開催

平成三十年度通常総会が、六月二十三日午後二時から、東京千代田区四ツ谷・主婦会館プラザFで開催された。
鈴木支部長出席。

小林会長挨拶の後、定款に従って会長を議長に指名して議事進行。

平成二十九年度の事業報告、決算報告があり、承認された。決算は、永年会員の寄付等により、若干ではあるが黒字となったが、まだまだ目標には達していない等の説明があった。

報告事項

・三十年度の事業計画とそれに伴う収支予算の説明。

・百二十周年事業の報告。

・広島支部齋支部長の報告

富士山及び幌尻岳で五人の会員が遭難死したことに訃告を申し上げる。昨年九月から全ての活動を中止し、その処理に疲労困憊である。重廣本会副会長を中心に広島支部再生員会を立ち上げた。四月の総会で再生広島支部の安全指針を掲げている。

・登山届の提出状況 十二月から内閣府の指導のより行っている。日帰り、十日間の日程、冬山、沢登り等、広範囲であり、リスクの大小もあるが、例外規定は設けない。全ての山行は提出する。

・参加新支部長の紹介
広島・東京多摩支部・秋田の各支部長

議事終了後のその他の発言

・登山届は出来るだけシンプルなものに。事故が起きた場合の対策面の指導。
・百二十周年記念事業については、バ

行事参加報告

◎秋田県山岳連盟総会

四月二十二日、午後一時三十分から秋田市中通イヤタカで開催。
役員・代議員 五十名出席。
・二十九年度事業報告決算承認、三十年度事業計画予算案等の審議承認。
・山の日制定記念一般募集登山は会費を徴収ことから旅行業に抵触することから中止となった。

・スポーツクライミング部役員を補強。
・秋田県「山の目」制定事業への積極的な参加の呼びかけ。
・役員改正 支部関係者は次のおり
顧問 高橋守 今野昌雄
理事 小野信也 三浦俊雄 佐藤助雄
監事 長岡幸則 高橋洋二

支部関係出席者 今野昌雄 長岡幸則
(報告 出席者 長岡幸則)

◎中央地区山岳協議会総会

六月二十六日(火)、六時三十分から赤沼・三吉神社で開催。十四団体二十一名出席。二十九年度事業・決算の報告、三十年度の事業、予算等を審議・承認。
役員改選については保留。
総会終了後の懇親会では、参加各会の活動状況の報告。
話題としては、太平山中岳から剣岳分岐までの歩道整備をぜひ実行したいと関心があつた。

◎第一回役員会

五月二十六日(土)午後一時から泉コモンで開催。
・役員体制と役務内容確認
・現在の執行状況 登山届件数、六十座ラリーの現況
・六十周年記念事業 祝賀会は、来年十月十九日(土)、会場は鶴の湯温泉。翌二十日(日)の懇親山行の案は、小白森山、大白森山。会報合本、六十周年記念誌の発行を予定。
・市民登山への協力、栗駒山登山の参加者等の事業計画の報告。

出席者 鈴木裕子 佐藤和志 堀井弘 鎌田倫夫 石川祐子 佐藤博 川口廣志 三浦眞六 佐々木長秀 安藤金栄 熊谷光子 柴田勸

鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫
佐藤博 大橋忠雄

(報告 出席者 鈴木裕子)

太平山遭難救助協力員を登録

中央地区山岳協議会の太平山遭難救助協力員(平成三十一年度)として次の支部会員を登録。

秋田支部登録者

佐々木民秀 鎌田倫夫 安藤金栄
柴田勸 今野昌雄 三浦眞六
堀井弘 鈴木裕子 石川祐子
他団体からの登録者
若月寿 佐藤博 福田光子
長岡幸則 大橋忠雄 川口廣志

会務報告

◎第一回役員会

五月二十六日(土)午後一時から泉コモンで開催。
・役員体制と役務内容確認
・現在の執行状況 登山届件数、六十座ラリーの現況
・六十周年記念事業 祝賀会は、来年十月十九日(土)、会場は鶴の湯温泉。翌二十日(日)の懇親山行の案は、小白森山、大白森山。会報合本、六十周年記念誌の発行を予定。
・市民登山への協力、栗駒山登山の参加者等の事業計画の報告。

出席者 鈴木裕子 佐藤和志 堀井弘 鎌田倫夫 石川祐子 佐藤博 川口廣志 三浦眞六 佐々木長秀 安藤金栄 熊谷光子 柴田勸

秋田支部会員数

(平成三十年四月一日現在)

◎会員数	四八八九名
名譽会員	一〇名
永年会員	三九一名
終身会員	四七名
通常会員	四一六二名
青年会員・他	二七九名
◎準会員	一二四名
秋田支部会員数	五十五名

支部関係出席者 佐々木民秀